

いい加減にしろ!台風15号接近時に運行を強行!

安全よりも「営利優先」する会社によって、
旅客、乗務員は振りまわされるだけ!

9月21日に上陸した台風15号は列島各地で多くの被害を残しました。台風12号による被害も残る中で被害を受けた方々にお見舞いを申し上げます。

この台風は日本列島に接近する前から非常に強いと気象庁も警戒を促し、9月20日には西日本、東海地方にかけて100万人以上に避難指示・勧告が発せられ、名古屋では庄内川が氾濫し住宅が浸水しました。

東海道新幹線は、20日から21日午後になっても通常運行を続けました。午後1時過ぎ、各地の風速計の規制値が風速30mを越えたため、東京～新大阪全線で運転を見合わせ、東京～三島間では終日運転が出来なくなりました。以降、移動した台風によって首都圏や東北地方にも交通や住宅に被害をもたらしました。

長時間運転が出来なくなった列車の中で缶詰となった旅客は疲労と苦情を表し、対応する運転士や車掌も神経を使い、結果3泊4日の連続乗務を強いられる乗務員も多く発生しました。

私たちが記憶するのは11年前(2000年)、9月11日、台風14号によってもたらされた豪雨によって新幹線が24時間にわたって運転出来なくなったことです。この時会社は、数多くの乗客が車内に閉じ込められる結果となったことについて、社会的に「もっと早く運転見合わせするべきだった」という批判にさらされました。数日後、当時の葛西敬之社長は「あれは未曾有の大災害が原因で、正常で適切な運行だった」と発言したが、この発言にも批判が集まり、更に後の会見では「多くの乗客にご迷惑をおかけしました」と陳謝せざるを得なくなりました。

震災時には「津波警報」が出ているにも関わらず運行を続けました。そして今回も多く警報が発せられている中で「規制値によってでしか止まる判断が出来ない」運行は行き当たりばったりの乗客の生命を危険にさらす行為ではないでしょうか。今の会社には安全を守る人間としての判断能力を問わなければなりません。さらに、今回も駅間に停車した列車がたくさんあり、もし急病人が発生したときには対応できない結果を生むところでした。一方、JR東日本は、安全と輸送障害が出る前に新幹線を「計画運休」の判断で運行を一斉に止める判断をしました。

大雨・暴風の中、多くの社員の努力が旅客の安全を守りきった!